（別紙様式4）

令和8年10月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大原簿記情報専門学校札幌校	昭和61年12月2日	渡邉　良憲	〒　060-0806 （住所）　北海道札幌市北区北6条西8丁目8番地1 （電話）　011-707-0088
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中本　毎彦	〒　101-0065 （住所）　東京都千代田区西神田一丁目1番3号 （電話）　03-3292-6266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
商業実務	商業実務専門課程	会計システム4年制学科	－	平成20(2008)年度	平成25(2013)年度

学科又は専攻科の目的	本学科は、簿記、税理士、公認会計士に関連した高度な会計知識の修得を通じて、経済界を牽引する稀有な人材を育成することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	■教育内容 簿記検定、税理士試験、公認会計士試験の合格に必要な会計知識及び一般的に商業実務で必要とされる経理知識、税務知識、パソコンスキルなどに関する内容の教育を行う。 ■取得可能な資格 税理士試験(簿記論、財務諸表論、消費税法、法人税法、相続税法)、公認会計士試験、日商簿記検定1級、など

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4　年	昼間	124　単位	594 単位	263 単位	3 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
110 人	65 人	0 人	0 %	6 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	15	人
■就職希望者数 (D)	10	人
■就職者数 €	9	人
■地元就職者数 (F)	8	人
■就職率 (E/D)	90	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	1	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	1	%
■進学者数	5	人

■その他

アルバイト、家事手伝い：1名

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

監査法人、税理士事務所

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/sapporo/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

総単位数		124 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	2 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	8 単位
	うち必修単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		2 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年7月30日　17:00～17:50/第2回　令和7年11月26日　16:30～17:20
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月26日現在

名　前	所　　属	任期	種別
渡邉　良憲	大原簿記情報専門学校札幌校 校長		ー
間山　あゆみ	大原簿記情報専門学校札幌校		ー
坂本　友之介	大原簿記情報専門学校札幌校		ー
石川　智寛	学校法人札幌大学　事務局 企画部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	②
坂本　武	税理士法人　エンカレッジ	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
卒業研究・発表	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	商業実務分野の実務において、様々な職種に幅広く求められるマーケティングの基礎知識修得を、企業等との連携により、より実践的に修得することを目的として実習を行う。 実習においては、エリアマーケティングを中心に学習を進めていく。	イオン北海道株式会社
経理実務	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	商業実務分野の実務において、経理職及び事務職に求められる基礎知識・事務手続きを、企業との連携により、教員がより実践的に修得する。講義・演習においては、証憑書類・帳簿・申告書等の作成を中心に行う。	山口一雄税理士事務所 宮下直樹税理士事務所
英会話入門	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	商業実務分野に該当する職種において求められる日常生活での簡単な英会話を、事例をもとに実践的に学習し、コミュニケーション能力の向上をはかる。	NOVAホールディングス株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。
「大原学園　教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。
校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおりである。
①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
②大学教授等を専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	”円満な相続”のために今できること	連携企業等：	宮下直樹税理士事務所
期間：	令和7年8月22日(金)	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①”円満な相続”のために今できること②ペポルインボイスとは③電子帳簿保存法と最新システム活用 ④賃上げ促進税法の改正		
研修名：	経理事務担当教員向け勉強会	連携企業等：	山口一雄税理士事務所
期間：	令和7年12月5日(金)	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①実社会にて経理職・事務職として業務に従事する際の注意及び意識すべき項目を学ぶ ②実務に精通する方からの指導による教員の知識力向上を図る		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	変化する高校生の理解と専門学校教育の展開 ～社会人基礎力の育成を目指して～	連携企業等：	公益財団法人北海道私立専修学校各種学校連合会
期間：	令和7年8月1日(金)	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①社会人基礎力とは何か②社会人基礎力に向けた課題と専門学校教育の取組み③社会人基礎力育成のための専門学校教育の展開について学ぶ		
研修名：	今すぐ実践したくなる！コミュニケーションの極意を伝授	連携企業等：	公益財団法人北海道私立専修学校各種学校連合会
期間：	令和7年12月18日(木)	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①メンタリズムの視点からの相手を観察し適切な言葉を投げかける技術②実践的なコミュニケ―ソ技術による信頼関係の構築について学ぶ		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	手形・小切手廃止と新リース会計基準 ― 試験範囲変更と指導方法 ―	連携企業等：	公益社団法人全国経理教育協会
期間：	令和8年8月28日（金）	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①簿記の出題範囲改訂の概要と背景②手形・小切手の取扱いの変更点③新リース会計基準の取扱い内容の変更点の説明と改定の背景及び理由を学ぶ		
研修名：	経営支援セミナー　－税務調査対策－	連携企業等：	宮下直樹税理士事務所
期間：	令和8年9月4日（金）	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	税務調査を受けても困らない会社づくり（税務調査対策＝毎日の経理業務）		
研修名：	経理事務担当教員向け勉強会	連携企業等：	経理の特命レスキュー隊株式会社
期間：	令和8年12月10日(木)	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①実社会にて経理職・事務職として業務に従事する際の注意及び意識すべき項目を学ぶ ②実務に精通する方からの指導による教員の知識力向上を図る		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	自主自律の気概 ～北海道スタンダードを生み出す～	連携企業等：	公益財団法人北海道私立専修学校各種学校連合会
期間：	令和8年8月4日（火）	対象：	会計システム4年制学科教員
内容	①北海道という地域を活かした事業への取り組みや発案を通して、人と人との繋がり、地域社会との繋がりの大切さについて学ぶ②社会情勢や環境の変化に応じた物事を見直し、将来を見据えた行動の重要性を学ぶ		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月30日現在

名　前	所　　属	任期	種別
石川　智寛	学校法人札幌大学　事務局 企画部	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	元大学教授
島元　宏忠	shima会計	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
津野田　孝志	東武トップツアーズ株式会社	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
須川　拓真	北央信用組合	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	令和8年10月30日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	令和8年10月30日		

授業科目等の概要

	（商業実務専門課程 会計システム４年制学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		簿記入門Ⅰ	株式会社における複式簿記の基本原理を学ぶ。	1前	1	○			○		○		
2		○		一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。	1前	1		○		○		○		
3		○		ビジネス教養Ⅰ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。	1通	1	○	△		○		○		
4		○		キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ。	1通	1	△	○		○		○		
5		○		1級会計学速習基礎	会計基準および適用指針など実務に直結する会計の基礎について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする。	1前	3	○			○		○		
6		○		1級原価計算速習基礎	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする。	1前	2	○			○		○		
7		○		1級簿記速習演習	個別会計、結合会計などを通じて近年の企業再編等についても学ぶ。	1前	2		○		○		○		
8		○		1級簿記速習総合	大企業を前提とした会計制度を学ぶ。	1前	4		○		○		○		
9		○		2級工業簿記基礎Ⅰ	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ。	1前	2	○			○		○		
10		○		2級商業簿記基礎Ⅰ	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社会計の基礎を学ぶ。	1前	3	○			○		○		
11		○		2級簿記総合Ⅰ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ。	1前	4		○		○		○		
12		○		3級商業簿記基礎	株式会社における複式簿記の基本原理、簿記の基本原理を学ぶ。	1前	3	○			○		○		

13		○		3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ。	1前	4		○		○		○		
14		○		簿記論速習応用Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	4	○			○		○		
15		○		簿記論速習基礎Ⅰ	簿記の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	3	○			○		○		
16		○		全経簿記上級総合Ⅰ	大企業を前提とした会計制度、複雑な会計処理をより詳細に学ぶ。	1前	4	△	○		○		○		
17		○		会計学入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの初歩的な知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	2	○	△		○		○		
18		○		会計学入門Ⅱ	会計学、会計基準の初歩的な概要を学ぶ。	1前	2	○	△		○		○		
19		○		簿記論速習総合Ⅰ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	3	○			○		○		
20		○		簿記論速習総合Ⅱ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	1前	3	○			○		○		
21		○		管理会計論入門Ⅰ	管理会計の概要を知り、基礎を学ぶ、	1前	1	○			○		○		
22		○		管理会計論入門Ⅱ	管理会計の概要を知り、原価計算制度の基礎知識を学ぶ。	1前	2	△	○		○		○		
23		○		財務会計論財表入門Ⅰ	財務会計、基礎概念を体系的に学ぶ。	1前	1	○			○		○		
24		○		財務会計論簿記入門Ⅰ	商品売買及び棚卸資産の初歩的な問題の解答を正確に導き出すことができる。	1前	2	△	○		○		○		
25		○		財務会計論簿記入門Ⅱ	現金預金及び金銭債権に関する初歩的な知識を学ぶ。	1前	2	○			○		○		
26		○		簿記論入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	1	○			○		○		
27		○		財務諸表論入門Ⅰ	会計学の概要入門を学ぶ。	1前	1	○	△		○		○		

28		○		消費税法入門Ⅰ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の考え方を学習する。	1前	1	○			○		○		
29		○		相続税法入門Ⅰ	相続税および贈与税の概要入門を学ぶ。	1前	1	○	△		○		○		
30		○		法人税法入門Ⅰ	法人税法の計算体系の理解を目的とする。	1前	1	○			○		○		
31		○		簿記論入門Ⅱ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1後	3	○			○		○		
32		○		財務諸表論入門Ⅱ	会計基準の入門概要を学ぶ。	1後	3	○			○		○		
33		○		消費税法入門Ⅱ	控除税額を中心とした考え方を学習する。	1後	3	○			○		○		
34		○		相続税法入門Ⅱ	相続税、贈与税の入門的な問題の理解。	1後	3	△	○		○		○		
35		○		法人税法入門Ⅱ	貸倒引当金の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	1後	3	○			○		○		
36		○		消費税法速習入門Ⅰ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の考え方を学習する。	1前	1	○			○		○		
37		○		消費税法速習基礎Ⅰ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした考え方を学習する。	1後	1	○			○		○		
38		○		企業法入門Ⅰ	会社法の全体像を俯瞰し、会社の設立を中心とした基礎的な概念を学ぶ。	1前	2	○			○		○		
39		○		監査論入門Ⅰ	監査手続きに関して、財務諸表監査に対する基礎的な枠組みを学ぶ。	1前	1	○			○		○		
40		○		財務会計論簿記入門Ⅲ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習。	1後	1		○		○		○		
41		○		財務会計論簿記入門演習Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う。	1後	1		○		○		○		
42		○		管理会計論入門演習Ⅰ	問題演習を行うことで、原価計算制度の基礎知識を定着させることを図る。	1後	1	△	○		○		○		

43		○		短答式対策入門総合Ⅰ	模擬試験形式による効果測定。	1後	1	△	○		○		○		
44		○		企業法入門Ⅱ	会社法の全体像を俯瞰し、株式を中心とした基礎的な概念を学ぶ。	1後	1	○	△		○		○		
45		○		監査論入門Ⅱ	監査手続きに関して、監査実施論に対する基礎的な枠組みを学ぶ。	1後	1	○	△		○		○		
46		○		租税法入門Ⅰ	法人税法の概要を捉え、基本的な計算を学ぶ。	1後	1	○			○		○		
47		○		消費税法速習応用Ⅰ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例の考え方を学習する。	1後	2	○			○		○		
48		○		簿記論基礎Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1後	4	○			○		○		
49		○		財務諸表論基礎Ⅰ	金融商品取引法の概要入門を学ぶ。	1後	4	○			○		○		
50		○		消費税法基礎Ⅰ	納税義務判定の特例や、仕入税額控除の特例などの考え方を学習する。	1後	4	○			○		○		
51		○		相続税法基礎Ⅰ	相続税、贈与税の入門的な知識を網羅し文章問題を解答する。	1後	4	○	△		○		○		
52		○		法人税法基礎Ⅰ	役員判定、役員給与を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	1後	4	○			○		○		
53		○		経営学入門Ⅰ	ファイナンス分野の基礎的な計算知識を学ぶ。	1後	1	○			○		○		
54		○		租税法入門Ⅱ	所得税法・消費税法の概要を捉え、基本的な計算を学ぶ。	1後	1	○			○		○		
55		○		管理会計論基礎演習Ⅰ	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、管理会計の基礎知識を定着させることを図る。	1後	1	△	○		○		○		
56		○		財務会計論基礎演習Ⅰ	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	1後	2	△	○		○		○		
57		○		企業法基礎演習Ⅰ	簡易的な記述式問題により会社法に関する正確な知識のインプットを図る演習。	1後	1	△	○		○		○		

58		○		監査論基礎演習Ⅰ	監査制度に関する個別的な論点を基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る。	1後	1	△	○		○		○		
59		○		経営学基礎演習Ⅰ	簡易的な計算問題によりファイナンス分野の知識のインプットを図る演習。	1後	1	△	○		○		○		
60		○		租税法基礎演習Ⅰ	計算問題を中心に法人税法に関する重要論点のインプットを図る演習。	1後	1	△	○		○		○		
61		○		財務会計論簿記入門Ⅳ	有価証券及び有形固定資産に関する初歩的な会計処理を学ぶ。	1後	3	○	△		○		○		
62		○		財務会計論財表入門Ⅱ	概念フレームワーク及び資産評価の基礎概念を学ぶ。	1後	1	○	△		○		○		
63		○		管理会計論入門Ⅲ	択一式の問題演習を通しながら、計算力の向上や原価計算基準を学ぶ。	1後	2	○	△		○		○		
64		○		企業法入門Ⅲ	会社法の全体像を俯瞰し、株式会社の機関設計や資金調達を中心とした基礎的な概念を学ぶ。	1後	2	○	△		○		○		
65		○		監査論入門Ⅲ	監査手続きに関して、監査報告論に対する基礎的な枠組みを学ぶ。	1後	1	○	△		○		○		
66		○		会計士キャリアデザインⅠ	職種や業種について基本的学習を行いつつ、会計士試験の理解を深め試験勉強と実務におけるつながりを理解する。	1通	1	○			○		○		
67		○		ビジネスリーディングⅠ	文献から問題の所在はどこにあり、問題の本質は何かについて、自ら発見するために必要となる知的技法(理解力、洞察力、思考力等)の基礎を学ぶ。今後学修を進めていく専門的内容の学修の基礎としていく。	1通	1	○	△		○		○		
68		○		ビジネスリーディングⅡ	専門的な学修や研究に取り組むための技術・能力の中でも、文章を読むためのクリティカル・リーディングの手法を修得する。「批判的・論理的思考の伴った読む力」を修得にむけた基礎的スキルを学ぶ。	1通	1	○	△		○		○		
69		○		ビジネスコミュニケーションⅠ	英語で、自分が考えること、思うことを適切に伝えることができるようになることを目標とし、正しい文法の知識と適切な使い方を分かりづらい項目を比較しながら理解していく。	1通	1	○	△		○		○		
70		○		ビジネスコミュニケーションⅢ	基本的な英文法を確認しながら短文を正確に理解することから始め、さらに構文、パラグラフの関係を把握し、記事や E メール、Web ページなどの長文を「効率よく」「英文の真意をくみとる」ことができるようにしていく。	1通	1	○	△		○		○		

71		○		統計学入門	近年、経営学や会計学、マーケティング等に広く用いられている統計学の意義と重要性を踏まえ、データの記述や相関、確率変数、確率分布等の統計学の基礎を学修する。	1通	1	○	△		○		○		
72		○		論理学入門	論理学の基礎的・実践的な知識や技法を修得する。	1通	1	○	△		○		○		
73		○		チームワーク論	リーダーの役割と責任、理論・フレームワークを理解し、目標を共有しながら、共同作業による相互作用を経て、メンバーが持つ能力を結集させることで、目標を達成することの意義やチームの成果を高めるプロセスを学修する。	1通	1	○	△		○		○		
74		○		法学概論	日常生活並びに現代のグローバル化した情報社会で求められる基礎的な法的知識や法的思考力を養い、理解をすることにある。具体的には、「法」とは何か、法の分類と概要、法(条文)解釈の手段、公法・私法分野の入門的知識等を学修する。	1通	1	○	△		○		○		
75		○		組織心理学	組織における心理学的知見の基礎を学修することで、働く方の行動メカニズムや職場における諸問題の典型例であるストレスとメンタルヘルスの問題、キャリア形成に関する問題、また、ワーク・モチベーションと職務満足、リーダーシップとチームワーク等の知識を理解し、修得する。	1通	1	○	△		○		○		
76		○		ITリテラシー	情報通信技術に関する基本的事項を理解する。コンピュータの仕組み、ソフトウエアにおけるオペレーティングシステムの機能と仕組み、情報システムの種類と機能、ネットワークの機能と仕組み等を学修する。	1通	1	○	△		○		○		
77		○		コンピュータリテラシー	コンピュータやネットワークの基礎的な知識を学んだのち、Microsoft Office のソフトである Word、Excel、PowerPoint の操作法を学んだ上で、Microsoft Excel を利用して、関数の利用に関する知識を中心に学修する。	1通	1	○	△		○		○		
78		○		ビジネス数学Ⅰ	線形代数学の考え方や具体的計算法等を理解する。連立 1 次方程式の解法、行列式、線形空間等の基礎概念を学修する。	1通	1	○	△		○		○		
79		○		ビジネス数学Ⅱ	経済・経営系科目を理解していく上で必要となる基礎的な数理的思考の学修をする。	1通	1	○	△		○		○		
80		○		総合ビジネス教養Ⅰ	自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解するとともに、円滑なコミュニケーションを行うための知性と感性を修得する。	1通	1	○	△		○		○		
81		○		総合ビジネス教養Ⅱ	現代の中国やその周辺地域で生活する人々の文化や社会に過去の歴史がどのように関わっているのか等の背景を深堀するとともに、各時代の特徴、時代間の連続性と関連性を見出すことにより、世界史の中で中国がどのような位置を占め、時代に応じて何を築き上げてきたのか等の理解を深める。	1通	1	○	△		○		○		

82		○		企業体験実習	インターンシップを通じて税務等の業務内容を理解する。	1後	1		△	○		○	○		
83		○		実務演習	実務で必要となる各種税法を体系的に学び、初歩的な知識を習得するための講義。	1後	3	○	△		○		○		○
84		○		簿記論応用Ⅰ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2前	2	○			○		○		
85		○		財務諸表論応用Ⅰ	会社法の概要入門を学ぶ。	2前	2	○	△		○		○		
86		○		消費税法応用Ⅰ	軽減税率や複数税率などの考え方を学習する。	2前	2	○			○		○		
87		○		相続税法応用Ⅰ	相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学習をし、理解を深める。	2前	2	○	△		○		○		
88		○		法人税法応用Ⅰ	連結納税制度等の特殊項目の学習を進める。	2前	2	○			○		○		
89		○		簿記論総合Ⅰ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	2前	6	○			○		○		
90		○		財務諸表論総合Ⅰ	財務諸表作成の入門概要を学ぶ。	2前	6	△	○		○		○		
91		○		消費税法総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ。	2前	6		○		○		○		
92		○		相続税法総合Ⅰ	相続税および贈与税の規定、申告について総合的に学ぶ。	2前	6	△	○		○		○		
93		○		法人税法総合Ⅰ	法人税法の計算体系の知識習得を目的とする。	2前	6		○		○		○		
94		○		短答式対策入門総合Ⅱ	模擬試験形式による効果測定。	2前	1		○		○		○		
95		○		管理会計論応用演習Ⅰ	応用力を身に着けるために、計算問題と記述式問題を織り交ぜた問題を解く。	2前	1	△	○		○		○		
96		○		財務会計論応用演習Ⅰ	数学的な応用知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	2前	2	△	○		○		○		

97		○		企業法応用演習Ⅰ	出題の意図に沿った会社法分野の正確な記述解答を図る演習。	2前	1	△	○		○		○		
98		○		監査論応用演習Ⅰ	解答の記述構成など監査制度に関する記述レベルを引き上げを図る演習。	2前	1	△	○		○		○		
99		○		経営学応用演習Ⅰ	ファイナンス分野の知識のインプット及びアウトプット力の向上を図る演習。	2前	1	△	○		○		○		
100		○		租税法応用演習Ⅰ	論理的な思考を用い法人税法に関する重要論点のアウトプット力の向上を図る演習。	2前	1	△	○		○		○		
101		○		財務会計論簿記入門Ⅴ	リース会計及びその他の資産並びに社債に関する初歩的な会計処理を学ぶ。	2前	2	○	△		○		○		
102		○		財務会計論財表入門Ⅲ	棚卸資産及び固定資産並びに繰延資産の会計処理に関する基礎概念を学ぶ。	2前	1	○	△		○		○		
103		○		管理会計論入門Ⅳ	問題演習を通しながら、計算力の向上とともに原価計算基準の知識の定着を図る。	2前	2	○	△		○		○		
104		○		企業法入門Ⅳ	会社法の全体像を俯瞰し、計算書類、定款変更、事業譲渡と組織再編行為を中心とした基礎的な概念を学ぶ。	2前	1	○	△		○		○		
105		○		監査論入門Ⅳ	監査手続きに関して、継続企業及び公認会計士法に対する基礎的な枠組みを学ぶ。	2前	1	○	△		○		○		
106		○		財務会計論簿記計算特訓Ⅰ	退職給付会計及び資産除去債務に関する基礎的な会計処理を学ぶ。	2前	1	△	○		○		○		
107		○		管理会計論計算特訓Ⅰ	入門講義で学習した知識を基に、計算力の向上を図る。	2前	1	△	○		○		○		
108		○		財務会計論簿記入門演習Ⅱ	数学的な基礎知識を基に、応用問題の解答を行う。	2前	1	△	○		○		○		
109		○		管理会計論入門演習Ⅱ	基礎的な総合問題を解くことで、管理会計の構造を理解する。	2前	1	△	○		○		○		
110		○		管理会計論直前演習Ⅰ	問題演習を通しながら、論理的な思考力と文章表現力を磨く。	2前	1	△	○		○		○		
111		○		財務会計論直前演習Ⅰ	数学的・論理的な思考を基に、実務的な総合問題の解答を行う。	2前	2	△	○		○		○		

112		○		企業法直前演習Ⅰ	会社法の横断的に係わる規定から出題される問題へのアプローチ方法を習得する演習。	2前	1	△	○		○		○		
113		○		監査論直前演習Ⅰ	監査制度に関する応用的な知識を事例を用いて記述式で問題解答を行う。	2前	1	△	○		○		○		
114		○		経営学直前演習Ⅰ	ファイナンス分野の知識のアウトプット力の向上を図る演習。	2前	1	△	○		○		○		
115		○		租税法直前演習Ⅰ	出題予想に基づく法人税法に関する試験独特の知識のインプットを図る演習。	2前	1	△	○		○		○		
116		○		論文式対策総合Ⅰ	模擬試験形式による総合問題の効果測定。	2前	1	△	○		○		○		
117		○		簿記論入門Ⅲ	簿記一巡・商品の流れの基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2前	1	○			○		○		
118		○		財務諸表論入門Ⅲ	会計学の基礎を学ぶ。	2前	1	○	△		○		○		
119		○		消費税法入門Ⅲ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の処理方法を学習する。	2前	1	○			○		○		
120		○		相続税法入門Ⅲ	相続税および贈与税の概要基礎を学ぶ。	2前	1	○	△		○		○		
121		○		法人税法入門Ⅲ	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的とする。	2前	1	○			○		○		
122		○		消費税法速習入門Ⅱ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の処理方法を学習する。	2前	1	○			○		○		
123		○		簿記論基礎Ⅲ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2後	4	○			○		○		
124		○		財務諸表論基礎Ⅲ	会計基準の基礎を学ぶ。	2後	4	○			○		○		
125		○		消費税法基礎Ⅱ	控除税額や納税義務の有無の判定を中心に処理方法を学習する。	2後	4	○			○		○		
126		○		相続税法基礎Ⅱ	相続税、贈与税の基礎的な問題の理解。	2後	4	○	△		○		○		

127		○		法人税法基礎Ⅱ	欠損金の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	2後	4	○			○		○		
128		○		消費税法速習基礎Ⅱ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした処理方法を学習する。	2後	1	○			○		○		
129		○		財務会計論簿記基礎Ⅰ	純資産会計及び法人税に関する基礎的な知識を学ぶ。	2前	2	○			○		○		
130		○		財務会計論財表基礎Ⅰ	負債会計及び純資産会計に関する基礎概念を学ぶ。	2前	1	○			○		○		
131		○		管理会計論基礎Ⅰ	基本的な用語や諸概念を理解するとともに、原価計算の一連の計算手続を理解する。	2前	2	○			○		○		
132		○		企業法基礎Ⅰ	会社法を中心とした、会社の設立や株式に関する知識を学ぶ。	2前	2	○			○		○		
133		○		監査論基礎Ⅰ	監査制度や監査の進め方に関して、財務諸表監査及び監査実施論についての基礎知識を学ぶ。	2前	1	○			○		○		
134		○		財務会計論簿記入門演習Ⅲ	数学的な思考を用い、計算総合問題の解答を行う。	2前	1		○		○		○		
135		○		管理会計論入門演習Ⅲ	管理会計の構造を意識しながら、総合問題を解くことで知識の定着を図る。	2前	1		○		○		○		
136		○		FP基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける。	2前	5	○	△		○		○		
137		○		FP応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける。	2前	3		○		○		○		
138		○		企業法基礎Ⅱ	会社法を中心とした、株式会社の機関に関する知識を学ぶ。	2後	1	○	△		○		○		
139		○		監査論基礎Ⅱ	監査制度や監査の進め方に関して、具体的な監査技術についての基礎知識を学ぶ。	2後	1	○	△		○		○		
140		○		財務会計論簿記基礎Ⅱ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習。	2後	1		○		○		○		
141		○		財務会計論簿記上級演習Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う。	2後	1	△	○		○		○		

142		○		管理会計論上級演習Ⅰ	問題演習を行うことで、原価計算制度の知識を定着させる。	2後	1		○		○		○		
143		○		短答式対策上級総合Ⅰ	模擬試験形式による効果測定。	2後	1	△	○		○		○		
144		○		簿記論基礎Ⅳ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2後	2	○	△		○		○		
145		○		財務諸表論基礎Ⅳ	金融商品取引法の基礎を学ぶ。	2後	2	○			○		○		
146		○		消費税法基礎Ⅲ	課税標準や簡易課税制度を中心とした処理方法を学習する。	2後	2	○			○		○		
147		○		相続税法基礎Ⅲ	相続税、贈与税の基礎的な知識を網羅し文章問題を解答する。	2後	2	○	△		○		○		
148		○		法人税法基礎Ⅲ	組織再編税制を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	2後	2	○			○		○		
149		○		租税法基礎Ⅰ	計算項目を理論的側面から捉える。	2後	1	○			○		○		
150		○		経営学基礎Ⅰ	組織論を中心に時代に沿って経営学を学ぶ。	2後	1	○			○		○		
151		○		租税法基礎Ⅱ	計算項目を理論的側面から捉える。	2後	1	○			○		○		
152		○		管理会計論基礎演習Ⅱ	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、管理会計論の典型論点を中心に理解を深める。	2後	1		○		○		○		
153		○		財務会計論基礎演習Ⅱ	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	2後	2		○		○		○		
154		○		企業法基礎演習Ⅱ	簡易的な記述式問題により商法に関する正確な知識のインプットを図る演習。	2後	1		○		○		○		
155		○		監査論基礎演習Ⅱ	監査実施論に関する個別的な論点を基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る。	2後	1		○		○		○		
156		○		経営学基礎演習Ⅱ	簡易的な記述式問題により組織論に関する知識のインプットを図る演習。	2後	1		○		○		○		

157		○		租税法基礎演習Ⅱ	計算問題を中心に所得税法に関する重要論点のインプットを図る演習。	2後	1		○		○		○		
158		○		財務会計論簿記基礎Ⅲ	連結会計に関する基礎的な会計処理を学ぶ。	2後	3	○	△		○		○		
159		○		財務会計論財表基礎Ⅱ	財務諸表の表示及び注記に関する基礎概念を学ぶ。	2後	1	○	△		○		○		
160		○		管理会計論基礎Ⅱ	原価計算システムを通じて提供される原価情報が企業経営においてどのように役立つのかを理解する。	2後	2	○	△		○		○		
161		○		企業法基礎Ⅲ	会社法を中心とした、資金調達に関する知識を学ぶ。	2後	2	○	△		○		○		
162		○		監査論基礎Ⅲ	監査制度や監査の進め方に関して、具体的な監査計画についての基礎知識を学ぶ。	2後	1	○	△		○		○		
163		○		一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける。	2前	1		○		○		○		
164		○		ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う。	2通	1		○		○		○		
165		○		キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	2前	1		○		○		○		
166		○		会計士キャリアデザインⅡ	オフィスツアーや会計・監査の実務家の講演により、会計専門職としての職業観を身につける。	2後	1		○		○	○	○		○
167		○		ビジネスプレゼンテーションⅠ	説得力のある文章(レポート、論文)を書くための思考の論理的な組み立て方や問いを立て、批判的に検討する方法、読む力を鍛える3 ステップ(情報を効率的に点検する「概略的読み」、論理の組み立て方を理解する「構造的読み」、議論を組み立てる「批判的読み」)等の技法を修得する。	2通	1		○		○		○		
168		○		ビジネスプレゼンテーションⅡ	本授業の目的は、日本語の言葉が持つ言葉の意味や語彙を正しく理解・把握し、規範的な文法に基づいた表現や場面・相手に応じた敬語表現等を正しく運用することで、対話力を向上させ、結果として対人関係を円滑に進めるための力を修得することにある。	2通	1		○		○		○		
169		○		ビジネスコミュニケーションⅡ	英語で、自分が考えること、思うことを適切に伝えることができるようになることを目標とし、大学の国際交流サークルを舞台に、様々なテーマ、シチュエーションで発言する表現を習得する	2通	1		○		○		○		

170		○		リーダーシップ論基礎	現代におけるリーダーシップ研究の基礎的知識の学修及びグループワークを実施することで、チームワークの重要性を学ぶとともに、他者との協働を以て目標や成果を達成するというリーダーとしての素養を育む。自身のリーダーシップに対する価値観を醸成し、オンライン・コミュニケーションを通じてチームワークを形成するという未来を見据えた力を修得する。	2通	1		○		○		○		
171		○		現代経済	金融、物価、景気、産業構造等の基礎知識に加え、貿易摩擦、財政改革、環境問題等のより一歩踏み込んだ戦後 70 年超を踏まえた日本経済の現況を把握する。	2通	1		○		○		○		
172		○		情報社会と法	情報社会における具体的な法律問題を題材に、必要な法律の知識を理解する。	2通	1		○		○		○		
173		○		経済数学	ミクロ経済学、マクロ経済学を理解する上で必要となる数学の知識を修得する。	2通	1		○		○		○		
174		○		ビジネスリテラシーⅠ	社会の変遷とともに形成・発展してきた都市計画、都市災害、都市防災の経緯や考え方を確認し、社会における暮らしとの関わりについて理解する。	2通	1		○		○		○		
175		○		教養としてのデータサイエンス	近年、第四の科学として重要性を増しているデータサイエンスや AIがあらゆる場面における問題解決手段として有効なものであることを理解する。データサイエンスにおける心得として、データ倫理の問題等を学修する。	2通	1		○		○		○		
176		○		ビジネスリテラシーⅡ	環境問題を正しく理解するために必要な環境科学の知識を修得する。環境問題の捉え方や解決のための視点を身に付け、持続可能な社会の実現のために必要な方策とはどのようなものか検討する。	2通	1		○		○		○		
177		○		総合ビジネス教養Ⅲ	アメリカ南北両大陸を含めた西洋世界の 15 世紀末から現代までの数百年の歩みを概観することで、現代歴史学の諸問題について学修する。	2通	1		○		○		○		
178		○		総合ビジネス教養Ⅳ	国際関係論における基礎理論を押さえながら、暴力とその抑制、戦争と平和という最大の秩序問題に国際社会がどのように取り組んできたのかを多角的視点で理解する。	2通	1		○		○		○		
179		○		実務会計実習	インターンシップを通じて税務等の業務内容を理解する。	2後	1			○		○	○		○
180		○		実務演習Ⅱ	実務で必要となる消費税法を体系的に学び、税務署への書類作成などの税務処理ができる知識、実務での応用的税務処理を習得するための講義。	2後	3	△	○		○		○		
181		○		簿記論応用Ⅲ	総合問題論点の基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	3前	2	○			○		○		

182		○		財務諸表論応用Ⅲ	会社法の基礎を学ぶ。	3前	2	○	△		○		○		
183		○		消費税法応用Ⅱ	軽減税率や複数税率などを中心とした処理方法を学習する。	3前	2	○			○		○		
184		○		相続税法応用Ⅱ	相続税、贈与税の応用的な理論的思考も学習をし、理解を深める。	3前	2	○	△		○		○		
185		○		法人税法応用Ⅱ	試験研究費等の特殊項目の学習を進める。	3前	2	○			○		○		
186		○		簿記論総合Ⅲ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	3前	6	○			○		○		
187		○		財務諸表論総合Ⅲ	財務諸表作成の基礎を学ぶ。	3前	6	○			○		○		
188		○		消費税法総合Ⅱ	確定申告書の納付（還付）税額算出までの流れを学ぶ。	3前	6		○		○		○		
189		○		相続税法総合Ⅱ	相続税および贈与税の規定、申告について総合的・応用的に学ぶ。	3前	6	△	○		○		○		
190		○		法人税法総合Ⅱ	法人税法の計算技術習得を目的とする。	3前	6		○		○		○		
191		○		消費税法速習総合Ⅱ	確定申告書の納付（還付）税額算出までの流れを学ぶ。	3前	3		○		○		○		
192		○		短答式対策上級総合Ⅱ	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、基礎的な計算力を高める。	3前	1		○		○		○		
193		○		管理会計論応用演習Ⅱ	難易度の高い問題や切り口の異なった多彩な問題を解くことで応用力を養う。	3前	1		○		○		○		
194		○		財務会計論応用演習Ⅱ	数学的な応用知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	3前	2		○		○		○		
195		○		企業法応用演習Ⅱ	出題の意図に沿った商法分野の正確な記述解答を図る演習。	3前	1		○		○		○		
196		○		監査論応用演習Ⅱ	解答の記述構成など実施論分野の記述レベルを引き上げを図る演習。	3前	1		○		○		○		

197		○		経営学応用演習Ⅱ	組織論に関する知識のインプット及びアウトプット力の向上を図る演習。	3前	1		○		○		○		
198		○		租税法応用演習Ⅱ	論理的な思考を用い所得税法に関する重要論点のアウトプット力の向上を図る演習。	3前	1		○		○		○		
199		○		財務会計論簿記基礎Ⅳ	税効果会計及び外貨建会計に関する基礎的な会計処理を学ぶ。	3前	2	○	△		○		○		
200		○		財務会計論財表基礎Ⅲ	誤謬基準及び金融商品会計基準に関する基礎概念を学ぶ。	3前	1	○	△		○		○		
201		○		管理会計論基礎Ⅲ	計算力の向上を図りつつ、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを学ぶ。	3前	2	○	△		○		○		
202		○		企業法基礎Ⅳ	会社法を中心とした、計算書類、定款に関する知識を学ぶ。	3前	1	○	△		○		○		
203		○		監査論基礎Ⅳ	監査制度や監査の進め方に関して、会計上の見積りや不正についての基礎知識を学ぶ。	3前	1	○	△		○		○		
204		○		財務会計論簿記計算特訓Ⅱ	包括利益及び在外子会社に関する応用的な会計処理を学ぶ。	3前	1	○	△		○		○		
205		○		管理会計論計算特訓Ⅱ	基礎講義で学習した知識を基に、計算力の向上を目的とする。	3前	1	○	△		○		○		
206		○		財務会計論簿記上級演習Ⅱ	数学的な基礎知識を基に、応用問題の解答を行う。	3前	1		○		○		○		
207		○		管理会計論上級演習Ⅱ	基礎的な総合問題を解くことで、管理会計の体系や構造を学ぶ。	3前	1		○		○		○		
208		○		管理会計論直前演習Ⅱ	問題演習を通しながら、論理的な思考力と文章表現力をさらに磨く。	3前	1		○		○		○		
209		○		財務会計論直前演習Ⅱ	数学的・論理的な思考を基に、実務的な総合問題の解答を行う。	3前	2		○		○		○		
210		○		企業法直前演習Ⅱ	商法の横断的に係わる規定から出題される問題へのアプローチ方法を習得する演習。	3前	1		○		○		○		
211		○		監査論直前演習Ⅱ	監査実施論に関する応用的な知識を事例を用いて記述式で問題解答を行う。	3前	1		○		○		○		

212		○		経営学直前演習Ⅱ	組織論に関する知識のアウトプット力の向上を図る演習。	3前	1		○		○		○		
213		○		租税法直前演習Ⅱ	出題予想に基づく所得税法に関する試験独特の知識のインプットを図る演習。	3前	1		○		○		○		
214		○		論文式対策総合Ⅱ	模擬試験形式による総合問題の効果測定。	3前	1		○		○		○		
215		○		簿記論入門Ⅳ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	3前	1	○			○		○		
216		○		財務諸表入門論Ⅳ	会計学の応用を学ぶ。	3前	1	○	△		○		○		
217		○		消費税法入門Ⅳ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の計算方法を学習する。	3前	1	○			○		○		
218		○		相続税法入門Ⅳ	相続税および贈与税の概要応用を学ぶ。	3前	1	○	△		○		○		
219		○		法人税法入門Ⅳ	法人税法の計算方法の理解を目的とする。	3前	1	○			○		○		
220		○		消費税法速習入門Ⅲ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の計算方法を学習する。	3前	2	○			○		○		
221		○		簿記論基礎Ⅴ	特殊商品売買・金融商品の知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	3後	4	○			○		○		
222		○		財務諸表論基礎Ⅴ	会計基準の応用を学ぶ。	3後	4	○			○		○		
223		○		消費税法基礎Ⅳ	控除税額を中心とした計算方法を学習する。	3後	4	○			○		○		
224		○		相続税法基礎Ⅳ	相続税、贈与税の応用的な問題の理解。	3後	4	○	△		○		○		
225		○		法人税法基礎Ⅳ	外貨建取引を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	3後	4	○			○		○		
226		○		消費税法速習基礎Ⅲ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした計算方法を学習する。	3後	1	○			○		○		

227		○		財務会計論簿記上級Ⅰ	連結会計及びセグメント情報に関する応用的な知識を学ぶ。	3前	2	○			○		○		
228		○		財務会計論財表上級Ⅰ	ストック・オプション及びリース並びに退職給付に関する基礎及び応用概念を学ぶ。	3前	1	○			○		○		
229		○		管理会計論上級Ⅰ	財務会計との相違に着目し、より詳細な管理会計を学ぶ。	3前	2	○			○		○		
230		○		企業法上級Ⅰ	会社法上の主要な課題について、株式会社の設立を中心に学習する。	3前	2	○			○		○		
231		○		監査論上級Ⅰ	財務諸表の監査証明業務に関して、財務諸表監査及び監査実施論を中心に、理論的裏付けも含めて学ぶ。	3前	1	○			○		○		
232		○		財務会計論簿記上級演習Ⅲ	数学的・論理的な思考を用い、計算総合問題の解答を行う。	3前	1		○		○		○		
233		○		管理会計論上級演習Ⅲ	試験委員固有の論点も含めた総合問題を演習することで計算力のさらなる構築を図る。	3前	1		○		○		○		
234		○		企業法上級Ⅱ	会社法上の主要な課題について、株式を中心に学習する。	3後	1	○	△		○		○		
235		○		監査論上級Ⅱ	財務諸表の監査証明業務に関して、財務諸表監査における不正を中心に、理論的裏付けも含めて学ぶ。	3後	1	○	△		○		○		
236		○		財務会計論簿記上級Ⅱ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習。	3後	1		○		○		○		
237		○		財務会計論簿記上級演習Ⅳ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う。	3後	1		○		○		○		
238		○		管理会計論上級演習Ⅳ	問題演習を行うことで、原価計算制度の理論的背景も含めて学ぶ。	3後	1		○		○		○		
239		○		短答式対策上級総合Ⅲ	模擬試験形式による効果測定。	3後	1		○		○		○		
240		○		簿記論基礎Ⅵ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	3後	2	○			○		○		
241		○		財務諸表論基礎Ⅵ	金融商品取引法の応用を学ぶ。	3後	2	○			○		○		

242		○		消費税法基礎Ⅴ	納税義務判定の特例や簡易課税制度を中心とした計算方法を学習する。	3後	2	○			○		○		
243		○		相続税法基礎Ⅴ	相続税、贈与税の応用的な知識を網羅し文章問題を解答する。	3後	2	○	△		○		○		
244		○		法人税法基礎Ⅴ	適用除外事業者を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	3後	2	○			○		○		
245		○		消費税法速習応用Ⅲ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例を中心とした計算方法を学習する。	3後	2	○			○		○		
246		○		租税法上級Ⅰ	法人税法・所得税法の関係性を学ぶ。	3後	1	○			○		○		
247		○		経営学上級Ⅰ	戦略論を中心に時代に沿って経営学を学ぶ。	3後	1	○			○		○		
248		○		租税法上級Ⅱ	所得税法・消費税法の関係性を学ぶ。	3後	1	○			○		○		
249		○		管理会計論基礎演習Ⅲ	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、管理会計論の典型論点を中心に理解をさらに深める。	3後	1		○		○		○		
250		○		財務会計論基礎演習Ⅲ	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	3後	2		○		○		○		
251		○		企業法基礎演習Ⅲ	簡易的な記述式問題により金融商品取引法に関する正確な知識のインプットを図る演習。	3後	1		○		○		○		
252		○		監査論基礎演習Ⅲ	監査報告論に関する個別的な論点を基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る。	3後	1		○		○		○		
253		○		経営学基礎演習Ⅲ	簡易的な記述式問題により戦略論に関する知識のインプットを図る演習。	3後	1		○		○		○		
254		○		租税法基礎演習Ⅲ	計算問題を中心に消費税法に関する重要論点のインプットを図る演習。	3後	1		○		○		○		
255		○		財務会計論簿記上級Ⅲ	企業結合及び事業分離に関する応用的な会計処理を学ぶ。	3後	3	○	△		○		○		
256		○		財務会計論財表上級Ⅱ	研究開発費及び減損会計並びに税効果会計に関する基礎及び応用概念を学ぶ。	3後	1	○	△		○		○		

257		○		管理会計論上級Ⅱ	原価計算基準を理解し、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを学ぶ。	3後	2	○	△		○		○		
258		○		企業法上級Ⅲ	会社法上の主要な課題について、株式及び株式会社の機関を中心に学習する。	3後	2	○	△		○		○		
259		○		監査論上級Ⅲ	財務諸表の監査証明業務に関して、内部監査や専門家を利用する場合を中心に、理論的裏付けも含めて学ぶ。	3後	1	○	△		○		○		
260		○		会計士キャリアデザインⅢ	職種や業種について基本的学習を行いつつ、会計士試験の理解を深め試験勉強と実務におけるつながりを理解する。	3通	1	○			○		○		
261		○		一般教養Ⅲ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける。	3前	1		○		○		○		
262		○		ビジネス教養Ⅲ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う。	3通	1		○		○		○		
263		○		キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ。	3通	1	△	○		○		○		
264		○		Power Point基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する。	3通	1	△	○		○		○		
265		○		ＩＴリテラシ	ネットワーク、セキュリティの知識とコンピュータの基本操作を学ぶ。	3後	4	○	△		○		○		
266		○		キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習。	3後	1	○	△		○		○		
267		○		業界・企業研究実践	自分の価値観に合った企業選びができる。	3後	1	△	○		○		○		
268		○		Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する。	3後	2	△	○		○		○		
269		○		経営学概論	経営学を学ぶ目的や学問体系を理解すべく、経営学の枠組み、企業形態、経営組織等について概要を理解する。戦略論、マーケティング論等の主要テーマについて基本となる知識を得ることで、経営学分野専門科目の学修への橋渡しとする。	3前	1	○	△		○		○		
270		○		マーケティング入門	本授業の目的は、グローバル化や AIの活用等、 市場環境が急速に変化するとともに、消費者のニーズが多様化している昨今の現状にあって、マーケティングの基礎理論と体系を学び、その理論概念を用いて、周囲にある商品やサービスの事例に当てはめていくことにある 。	3前	1	○	△		○		○		

271		○		国際ビジネス入門	日本企業やグローバル企業における国際ビジネスに関する歴史等を概観した上で、 大手企業だけでなく、中小企業間でも国際化が進展している昨今の状況を踏まえ、事業執行にあたっての主な職能、日本企業において重要進出拠点となる国や地域のビジネス環境等を学ぶ。	3 前	1	○	△		○		○		
272		○		ファイナンス入門	本授業の目的は、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券市場の仕組み、金融商品の価格、将来価値と現在価値の考え方、さらには債券と株式の基礎的分析手法等を学ぶことにある。	3 前	1	○	△		○		○		
273		○		経済原論	ミクロ経済学並びにマクロ経済学の基礎と理論を学び、社会を取り巻く環境や社会現象の中で、経済学がどのように生かされているのかを考えていく。	3 前	1	○	△		○		○		
274		○		簿記原理	企業活動を記録するための手法である簿記の基礎を学ぶ。簿記を理解することによって、企業で経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力や基本的な経営管理のスキル等を修得する。	3 前	1		○		○		○		
275		○		ミクロ経済学	経済学における基礎科目として、市場を分析し、役割を理解する。消費者行動、生産者行動等のミクロ経済学理論を体系的に学び、現実の経済の問題と関連させながら学ぶ。	3 後	1	○	△		○		○		
276		○		マクロ経済学	経済学における基礎科目として、国全体の経済を分析するマクロ経済学の基礎理論を学習する。	3 後	1	○	△		○		○		
277		○		財務会計基礎	主に企業会計で使われるもので、企業における事業活動の結果を反映する会計情報を外部の利害関係者に報告するための会計として、まずは、会計原則並びに理論を学び、それらの役割を理解するとともに、貸借対照表に関する内容を学修する。	3 前	2	○	△		○		○		
278		○		競争戦略論	競合企業に対して持続的な競争優位性を確立するための戦略である競争戦略に焦点を当て、競争戦略の基礎理論やフレームワーク、企業間競争における戦略の分析までを確認し、体系的な理解を得るとともに、実際の経営現象に当てはめて思考することで、実践的な知識の修得を図る。	3 後	2	○	△		○		○		
279		○		国際経営論	国際経営の歴史的展開を学び、多国籍企業における組織と戦略並びに実態を理解する。	3 後	2	○	△		○		○		
280		○		ブランドマネジメント論	ブランド戦略を立案・構築するために必要となる理論的観点からの枠組みを理解する。	3 後	2	○	△		○		○		
281		○		金融論	証券化や投資信託、直接型・間接型の金融商品等の難解な現代における金融の仕組みを理解した上で、金融機関の意義、金融政策、金融規制等の政策のあり方を学修する。	3 通	2	○	△		○		○		

282		○		流通システム論	小売業、卸売業等の流通システムを構成する各種企業の活動について、具体的事例を踏まえながら、その流通システムの構造と発展に係る理論的体系を学修する。	3 前	2	○	△		○		○		
283		○		マーケティング論	マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深め、実務で利活用を目指す。	3 後	2	○	△		○		○		
284		○		イノベーション論	イノベーションとはどのようなもので、企業経営においてどのような役割を果たすのかということを、新製品開発や組織、経営戦略、製品アーキテクチャ、価値創造等の多角的視点から理解し、理論的に思考する。	3 後	2	○	△		○		○		
285		○		経営管理論	本授業の目的は、 経営管理に必要となる知識や理論等を体系的に理解することにある。具体的には、生産性と創造性の探求理論としての経営管理論という観点を前提に、現代の日本における経営管理のあり方等を学修する。	3 後	2	○	△		○		○		
286		○		経営組織論	経営組織論の概念のもと、組織とは何かという視点に始まり、基礎理論、組織構造とデザイン、内部組織のマネジメント、外部環境との関係性から組織の戦略を考えていく等の考え方を体系的に理解するとともに、組織の変革の捉え方や進め方等も学修していく。	3 後	2	○	△		○		○		
287		○		消費者行動論	消費者の多様性を理解した上で、消費者心理と行動における基本的な理論や枠組みについて、体系的な知識を修得する。	3 後	2	○	△		○		○		
288		○		現代商品論	商品論（商品学）とは何かを考察した上で、現代における商品の意義や特徴について学修する。	3 通	2	○	△		○		○		
289		○		経営学史	経営学の系譜を考える上で、歴史的に重要性が高いものと位置付けられる主要な経営学説について、その時代背景とともに生み出された問題意識に着眼点を置きながら理解をしていくことで、 現代の企業経営における課題を解決するための技法を得る。	3 通	2	○	△		○		○		
290		○		財務諸表論	企業外部の利害関係者に対して、企業の財務状況や経営状況を報告するために行われるという観点から、経済社会において重要な情報源であるという財務会計について、財務諸表（貸借対照表、損益及び包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書）を通して、企業の経営状況や会計の枠組み等を理解する。	3 後	2	○	△		○		○		
291		○		統計分析入門	企業価値向上に繋げるべく、リスク管理としてのリスクの計量化を図ったり、各種戦略の策定を適切に行うにあたっては、データに基づいた客観的な意思決定をする必要がある等の状況を踏まえ、統計学の基本的理論を用いてデータ整理から要約、さらにはデータ傾向の抽出を行うといった一連の統計分析手法を学修する。	3 前	2	○	△		○		○		

292		○		ＡＩ・データサイエンス基礎概論	大量のデータから有益な情報、法則、知見等を導き出すための手法であるデータサイエンスの基礎知識や理論、技能を修得する。具体的には、データ取得と管理、散布図や	3前	2	○	△		○		○		
293		○		産業システム論	経済学理論を応用して、企業における意思決定や産業構造に関する考察方法を理解する。	3通	2	○	△		○		○		
294		○		ビジネスデータ分析	統計学の理論と統計手法の基礎を修得し、マーケティングの分野で統計学をどのように活用できるかを理解する。実際に、統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身に付ける。	3前	2	○	△		○		○		
295		○		経営情報論	経営学の視点からDX、ICT、ビッグデータ等の技術革新が企業経営にどのような影響を及ぼしているのか、そして、どのように活用されているのかという点を理論と実際の双方から学修する。	3前	2	○	△		○		○		
296		○		リーダーシップ論	既存のリーダーシップ研究に基づいた様々なアプローチ手法を理解し、根本の部分にある「リーダーシップとは何か」ということについて、成長発達理論等を根拠に理解していく。	3通	2	○	△		○		○		
297		○		企業倫理と社会的責任	本授業の目的は、企業経営における規律性と適正性を確保するための仕組みであるコーポレートガバナンスを学修する。具体的には、いかに企業不祥事を防止し、企業価値を高め、内部・外部における多数のステークホルダーとの関係を保持し、経営の発展を実現させ、管理していくか等をグローバルな視点や実務の観点を取り入れながら、体系的な理論と知識を修得することにある。	3通	2	○	△		○		○		
298		○		マーケティング調査	市場分析やセグメンテーション等のマーケティング戦略を策定することができるようになるために、マーケティング調査の基本的意義から、調査課題の設定、質問紙の作成、データ収集、データ分析、報告書の作成の一連の調査過程を体系的かつ実践的に学修をすることによって、マーケティング調査に関する深い理解を得る。	3通	2	○	△		○		○		
299		○		デジタルマーケティング	SNS やインターネット広告等のデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの基礎となる理論や概念、戦略、マネジメントを体系的に学修し、特に、企業がインターネット上で実施するマーケティングについて、消費者行動の視点から分析・検討を進めることで、デジタルマーケティングの理解を深めていく。	3通	2	○	△		○		○		
300		○		実務 会計処理実習	インターンシップを通じて税務等の業務内容を理解する。	3後	1			○	○		○		○

301		○		実務演習Ⅲ	実務で必要となる法人税法を体系的に学び、税務署への書類作成などの税務処理ができる知識、実務での応用的税務処理を習得するための講義。	3後	3	○	△		○		○		
302		○		所得税法入門Ⅳ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	3後	1	○			○		○		
303		○		所得税法基礎Ⅳ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	3後	4	○			○		○		
304		○		所得税法基礎Ⅴ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	3後	2	○			○		○		
305		○		所得税法Ⅱ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	3後	1	○			○		○		
306		○		簿記論応用Ⅳ	総合問題論点の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	4前	2	○			○		○		
307		○		財務諸表論応用Ⅳ	会社法の応用を学ぶ。	4前	2	○	△		○		○		
308		○		消費税法応用Ⅲ	軽減税率や複数税率などの計算方法および税法理論を学習する。	4前	2	○			○		○		
309		○		相続税法応用Ⅲ	相続税、贈与税の実践的な理論的思考も学習をし、理解を深める。	4前	2	○	△		○		○		
310		○		法人税法応用Ⅲ	解散税制等の特殊項目の学習を進める。	4前	2	○			○		○		
311		○		簿記論総合Ⅳ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	4前	6	○			○		○		
312		○		財務諸表論総合Ⅳ	財務諸表作成の応用を学ぶ。	4前	6	△	○		○		○		
313		○		消費税法総合Ⅲ	納税義務判定を含む確定申告書の納付（還付）税額算出までの流れを学ぶ。	4前	6		○		○		○		
314		○		相続税法総合Ⅲ	相続税および贈与税の規定、申告について総合的・実践的に学ぶ。	4前	6	△	○		○		○		
315		○		法人税法総合Ⅲ	法人税法に基づいた計算技術習得を目的とした対策を行う。	4前	6		○		○		○		

316		○		消費税法速習総合Ⅲ	納税義務判定を含む確定申告書の納付（還付）税額算出までの流れを学ぶ。	4前	3		○		○		○			
317		○		短答式対策上級総合Ⅳ	模擬試験形式による効果測定。	4前	1		○		○		○			
318		○		管理会計論応用演習Ⅲ	難易度の高い問題や切り口の異なった多彩な問題を解くことで応用力をさらに養う。	4前	1		○		○		○			
319		○		財務会計論応用演習Ⅲ	数学的な応用知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	4前	2		○		○		○			
320		○		企業法応用演習Ⅲ	出題の意図に沿った金融商品取引法分野の正確な記述解答を図る演習。	4前	1		○		○		○			
321		○		監査論応用演習Ⅲ	解答の記述構成など報告論分野の記述レベルを引き上げを図る演習。	4前	1		○		○		○			
322		○		経営学応用演習Ⅲ	戦略論に関する知識のインプット及びアウトプットカの向上を図る演習。	4前	1		○		○		○			
323		○		租税法応用演習Ⅲ	論理的な思考を用い消費税法に関する重要論点のアウトプットカの向上を図る演習。	4前	1		○		○		○			
324		○		財務会計論簿記上級Ⅳ	キャッシュ・フロー計算書に関する応用的な会計処理を学ぶ。	4前	2	○	△		○		○			
325		○		財務会計論財表上級Ⅲ	連結財務諸表の作成に関する基礎及び応用概念を学ぶ。	4前	1	○	△		○		○			
326		○		管理会計論上級Ⅲ	原価計算基準を理解し、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることをより深く学ぶ。	4前	2	○	△		○		○			
327		○		企業法上級Ⅳ	会社法に関連する商法総則、商行為法について学習することで会社法全体に対する理解を深める。	4前	1	○	△		○		○			
328		○		監査論上級Ⅳ	財務諸表の監査証明業務に関して、監査実施論及び監査報告論を中心に、理論的裏付けも含めて学ぶ。	4前	1	○	△		○		○			
329		○		財務会計論簿記計算特訓Ⅲ	連結キャッシュ・フロー計算書に関する実践的な会計処理を学ぶ。	4前	1	○	△		○		○			
330		○		管理会計論計算特訓Ⅲ	個別論点問題や総合問題を演習することで、基礎知識の理解を深める。	4前	1	○	△		○		○			

331		○		財務会計論簿記上級演習Ⅴ	数学的な基礎知識を基に、応用問題の解答を行う。	4前	1		○		○		○			
332		○		管理会計論上級演習Ⅴ	基礎的な総合問題を解くことで、管理会計の体系や構造をさらに理解する。	4前	1		○		○		○			
333		○		管理会計論直前演習Ⅲ	試験委員固有の論点を意識しながら、論理的な思考力と文章表現力を磨く。	4前	1		○		○		○			
334		○		財務会計論直前演習Ⅲ	数学的・論理的な思考を基に、実務的な総合問題の解答を行う。	4前	2		○		○		○			
335		○		企業法直前演習Ⅲ	金融商品取引法の横断的に係わる規定から出題される問題へのアプローチ方法を習得する演習。	4前	1		○		○		○			
336		○		監査論直前演習Ⅲ	監査報告論に関する応用的な知識を事例を用いて記述式で問題解答を行う。	4前	1		○		○		○			
337		○		経営学直前演習Ⅲ	戦略論に関する知識のアウトプット力の向上を図る演習。	4前	1		○		○		○			
338		○		租税法直前演習Ⅲ	出題予想に基づく消費税法に関する試験独特の知識のインプットを図る演習。	4前	1		○		○		○			
339		○		論文式対策総合Ⅲ	模擬試験形式による総合問題の効果測定。	4前	1		○		○		○			
340		○		簿記論入門Ⅴ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	4前	1	○			○		○			
341		○		財務諸表論入門Ⅴ	会計学の実践を学ぶ。	4前	1	○	△		○		○			
342		○		消費税法入門Ⅴ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の税法理論を学習する。	4前	1	○			○		○			
343		○		相続税法入門Ⅴ	相続税および贈与税の概要実践を学ぶ。	4前	1	○	△		○		○			
344		○		法人税法入門Ⅴ	法人税法の計算方法の理解を目的として実践的な知識を学ぶ。	4前	1	○			○		○			
345		○		消費税法速習入門Ⅳ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の税法理論を学習する。	4前	1	○			○		○			

346		○		簿記論基礎Ⅶ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	4後	4	○			○		○		
347		○		財務諸表論基礎Ⅶ	会計基準の実践を学ぶ。	4後	4	○			○		○		
348		○		消費税法基礎Ⅵ	控除税額や納税義務の有無の判定を中心とした税法理論を学習する。	4後	4	○			○		○		
349		○		相続税法基礎Ⅵ	相続税、贈与税の実践的な問題の理解。	4後	4	△	○		○		○		
350		○		法人税法基礎Ⅵ	圧縮記帳の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	4後	4	○			○		○		
351		○		消費税法速習基礎Ⅳ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした税法理論を学習する。	4後	1	○			○		○		
352		○		財務会計論簿記実践Ⅰ	特殊商品売買及び帳簿組織並びに本支店会計に関する実践的な知識を学ぶ。	4前	2	○			○		○		
353		○		財務会計論財表実践Ⅰ	企業結合及び事業分離に関する基礎及び応用概念を学ぶ。	4前	1	○			○		○		
354		○		管理会計論実践Ⅰ	論理的側面から考察し、実践的な知識を学ぶ。	4前	2	○			○		○		
355		○		企業法実践Ⅰ	会社法上の主要な課題について、株式会社の設立を中心に、学説や判例にも触れながらその解釈を学ぶ。	4前	2	○			○		○		
356		○		監査論実践Ⅰ	公認会計士が担うべき役割を踏まえながら、四半期レビュー及び金融取引法監査を中心に、実践的な監査業務について学ぶ。	4前	1	○			○		○		
357		○		財務会計論簿記上級演習Ⅵ	数学的・論理的な思考を用い、計算総合問題の解答を行う。	4前	1		○		○		○		
358		○		管理会計論上級演習Ⅵ	試験委員固有の論点も含めた総合問題を演習することで計算力の向上を図る。	4前	1		○		○		○		
359		○		企業法実践Ⅱ	会社法上の主要な課題について、株式会社の機関を中心、に学説や判例にも触れながらその解釈を学ぶ。	4後	1	○	△		○		○		
360		○		監査論実践Ⅱ	公認会計士が担うべき役割を踏まえながら、公認会計士法や倫理規則に準じた監査業務について学ぶ。	4後	1	○	△		○		○		

361		○		財務会計論 簿記実践Ⅱ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習。	4 後	1		○		○		○		
362		○		財務会計論 簿記演習Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う。	4 後	1		○		○		○		
363		○		管理会計論 演習Ⅰ	問題演習を行うことで、管理会計論の計算力構築を図る。	4 後	1		○		○		○		
364		○		短答式対策 上級総合Ⅴ	模擬試験形式による効果測定。	4 後	1		○		○		○		
365		○		簿記論基礎 Ⅷ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	4 後	1	○			○		○		
366		○		財務諸表論 基礎Ⅷ	金融商品取引法の実践を学ぶ。	4 後	1	○			○		○		
367		○		消費税法基 礎Ⅶ	課税標準や簡易課税制度を中心とした税法理論を学習する。	4 後	1	○			○		○		
368		○		相続税法基 礎Ⅶ	相続税、贈与税の実践的な知識を網羅し文章問題を解答する。	4 後	1	△	○		○		○		
369		○		法人税法基 礎Ⅶ	スピンオフ税制を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	4 後	1	○	△		○		○		
370		○		消費税法速 習応用Ⅳ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例を中心とした税法理論を学習する。	4 後	2	○			○		○		
371		○		租税法実践 Ⅰ	実務的な慣習や例外規定まで学習範囲を広げ、高度な知識を学ぶ。	4 後	1	○			○		○		
372		○		経営学実践 Ⅰ	近代的経営学を中心に企業のあるべき姿を学ぶ。	4 後	1	○			○		○		
373		○		租税法実践 Ⅱ	実務的な慣習や例外規定まで学習範囲を広げ、高度な知識を学ぶ。	4 後	1	○			○		○		
374		○		管理会計論 基礎演習Ⅳ	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、管理会計論の基礎論点を網羅した理解に繋げる。	4 後	1		○		○		○		
375		○		財務会計論 基礎演習Ⅳ	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、記述式問題の解答を行う。	4 後	2		○		○		○		

376		○		企業法基礎演習Ⅳ	出題の意図に沿った企業法全般の正確な解答を図る演習。	4後	1		○		○		○			
377		○		監査論基礎演習Ⅳ	他規定や関連する法律に関する基礎知識について基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る。	4後	1		○		○		○			
378		○		経営学基礎演習Ⅳ	簡易的な記述式問題により近代的経営学に関する知識のインプットを図る演習。	4後	1		○		○		○			
379		○		租税法基礎演習Ⅳ	計算問題を中心に租税法全般に関する重要論点のインプットを図る演習。	4後	1		○		○		○			
380		○		財務会計論簿記実践Ⅲ	企業会計基準の詳細及び製造業に関する実践的な会計処理を学ぶ。	4後	3	○	△		○		○			
381		○		財務会計論財表実践Ⅱ	外貨建会計及び四半期財務諸表の作成に関する基礎及び応用概念を学ぶ。	4後	1	○	△		○		○			
382		○		管理会計論実践Ⅱ	論理的側面から考察し、実践的な知識を学び、管理会計システムに関して考察を述べる。	4後	2	○	△		○		○			
383		○		企業法実践Ⅲ	会社法上の主要な課題について、株式会社の資金調達を中心に、学説や判例にも触れながらその解釈を学ぶ。	4後	2	○	△		○		○			
384		○		監査論実践Ⅲ	公認会計士が担うべき役割を踏まえながら、保証業務や我が国の監査の歴史ついて学ぶ。	4後	1	○	△		○		○			
385		○		会計士キャリアデザインⅣ	オフィスツアー、会計・監査の実務家の講演などを通じて会計専門職としての職業観を身につける。	4後	1		○		○		○			○
386		○		一般教養Ⅳ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける。	4前	1		○		○		○			
387		○		ビジネス教養Ⅳ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う。	4通	1		○		○		○			
388		○		Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する。	4通	1	△	○		○		○			
389		○		英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する。	4通	1	△	○		○		○			○
390		○		ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する。	4通	2	○	△		○		○			

391		○		卒業研究・発表	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する。	4後	2		○		○		○		○
392		○		マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する。	4後	2	○	△		○		○		
393		○		FP基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける。	4前	5	○	△		○		○		
394		○		FP応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける。	4前	3		○		○		○		
395		○		FP総合	「お金」に関する総合的な知識を深め、経済社会との関係性を理解する。	4前	4		○		○		○		
396		○		パソコン実習Ⅰ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する。	4通	1	△	○		○		○		
397		○		パソコン実習Ⅱ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する。	4通	1	△	○		○		○		
398		○		パソコン実習Ⅲ	応用的な機能を活用した文書作成や複雑なデータ集計を行うスキル習得のための実習。	4通	1		○		○		○		
399		○		卒業前特別講座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ。	4後	1	○			○		○		○
400		○		経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、知識を習得するための講義。	4通	2	○	△		○		○		○
401		○		給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務に必要な知識を習得する講義。	4後	2	○	△		○		○		
402		○		財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度を理解するための講義。	4後	2	○	△		○		○		
403		○		販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する。	4通	3	○			○		○		
404		○		販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する。	4後	3	○	△		○		○		

405		○		競争戦略論	競合企業に対して持続的な競争優位性を確立するための戦略である競争戦略に焦点を当て、競争戦略の基礎理論やフレームワーク、企業間競争における戦略の分析までを確認し、体系的な理解を得るとともに、実際の経営現象に当てはめて思考することで、実践的な知識の修得を図る。	4後	2	○	△		○		○		
406		○		国際経営論	本授業の目的は、まずは国際経営の歴史的展開を学び、多国籍企業における組織と戦略並びに実態を理解することにある。そして、国際的に広がった企業の活動は、いかに組織・運営され、いかに文化や歴史的背景を異にする国と地域に販売・生産・研究開発拠点を配置するのか等の固有の問題についても学修していく。	4後	2	○	△		○		○		
407		○		ブランドマネジメント論	ブランド戦略を立案・構築するために必要となる理論的観点からの枠組みを理解する。	4後	2	○	△		○		○		
408		○		金融論	証券化や投資信託、直接型・間接型の金融商品等の難解な現代における金融の仕組みを理解した上で、金融機関の意義、金融政策、金融規制等の政策のあり方を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
409		○		流通システム論	本授業の目的は、小売業、卸売業等の流通システムを構成する各種企業の活動について、具体的事例を踏まえながら、その流通システムの構造と発展に係る理論的体系を学修することにある。	4前	2	○	△		○		○		
410		○		マーケティング論	マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務での利活用を目指す。	4後	2	○	△		○		○		
411		○		イノベーション論	イノベーションとはどのようなもので、企業経営においてどのような役割を果たすのかということを、新製品開発や組織、経営戦略、製品アーキテクチャ、価値創造等の多角的視点から理解し、理論的に思考する。	4後	2	○	△		○		○		
412		○		経営管理論	本授業の目的は、 経営管理に必要となる知識や理論等を体系的に理解することにある。具体的には、生産性と創造性の探求理論としての経営管理論という観点を前提に、現代の日本における経営管理のあり方等を学修する。	4後	2	○	△		○		○		
413		○		経営組織論	経営組織論の概念のもと、組織とは何かという視点に始まり、基礎理論、組織構造とデザイン、内部組織のマネジメント、外部環境との関係性から組織の戦略を考えていく等の考え方を体系的に理解するとともに、組織の変革の捉え方や進め方等も学修していく。	4後	2	○	△		○		○		
414		○		消費者行動論	消費者の多様性を理解した上で、消費者心理と行動における基本的な理論や枠組みについて、体系的な知識を修得する。	4後	2	○	△		○		○		

415		○		現代商品論	商品論（商品学）とは何かを考察した上で、現代における商品の意義や特徴について学修する。	4通	2	○	△		○		○			
416		○		経営学史	経営学の系譜を考える上で、歴史的に重要性が高いものと位置付けられる主要な経営学説について、その時代背景とともに生み出された問題意識に着眼点を置きながら理解をしていくことで、 現代の企業経営における課題を解決するための技法を得る。	4通	2	○	△		○		○			
417		○		財務諸表論	企業外部の利害関係者に対して、企業の財務状況や経営状況を報告するために行われるという観点から、経済社会において重要な情報源であるという財務会計について、財務諸表（貸借対照表、損益及び包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書）を通して、企業の経営状況や会計の枠組み等を理解する。	4後	2	○	△		○		○			
418		○		統計分析入門	本授業の目的は、企業価値向上に繋げるべく、リスク管理としてのリスクの計量化を図ったり、各種戦略の策定を適切に行うにあたっては、データに基づいた客観的な意思決定をする必要がある等の状況を踏まえ、統計学の基本的理論を用いてデータ整理から要約、さらにはデータ傾向の抽出を行うといった一連の統計分析手法を学修することにある。	4前	2	○	△		○		○			
419		○		ＡＩ・データサイエンス基礎概論	大量のデータから有益な情報、法則、知見等を導き出すための手法であるデータサイエンスの基礎知識や理論、技能の修得をする。	4前	2	○	△		○		○			
420		○		産業システム論	経済学理論を応用して、企業における意思決定や産業構造に関する考察方法を理解する。	4通	2	○	△		○		○			
421		○		ビジネスデータ分析	統計学の理論と統計手法の基礎を修得し、マーケティングの分野で統計学をどのように活用できるかを理解する。実際に、統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身に付ける。	4前	2	○	△		○		○			
422		○		経営情報論	経営学の視点からDX、ICT、ビッグデータ等の技術革新が企業経営にどのような影響を及ぼしているのか、そして、どのように活用されているのかという点を理論と実際の双方から学修する。	4前	2	○	△		○		○			
423		○		リーダーシップ論	既存のリーダーシップ研究に基づいた様々なアプローチ手法を理解し、リーダーシップの基本的な知識を修得する。根本の部分にある「リーダーシップとは何か」ということについて、成長発達理論等を根拠に理解していく。	4通	2	○	△		○		○			

424		○		企業倫理と社会的責任	企業経営における規律性と適正性を確保するための仕組みであるコーポレートガバナンスを学修する。具体的には、いかに企業不祥事を防止し、企業価値を高め、内部・外部における多数のステークホルダーとの関係を保持し、経営の発展を実現させ、管理していくか等をグローバルな視点や実務の観点を取り入れながら、体系的な理論と知識を修得する。	4通	2	○	△		○		○		
425		○		マーケティング調査	市場分析やセグメンテーション等のマーケティング戦略を策定することができるようになるために、マーケティング調査の基本的意義から、調査課題の設定、質問紙の作成、データ収集、データ分析、報告書の作成の一連の調査過程を体系的かつ実践的に学修をすることによって、マーケティング調査に関する深い理解を得る。	4通	2	○	△		○		○		
426		○		デジタルマーケティング	SNS やインターネット広告等のデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの基礎となる理論や概念、戦略、マネジメントを体系的に学修し、特に、企業がインターネット上で実施するマーケティングについて、消費者行動の視点から分析・検討を進めることで、デジタルマーケティングの理解を深めていく。	4通	2	○	△		○		○		
427		○		中小企業論	本授業の目的は、第一次産業を除く日本企業の 99%超を占める中小企業の日本経済社会における重要基盤としての役割や雇用の創出、資金的・物的・人的支援を通じた地域社会への貢献等を踏まえるとともに、企業存立や中小企業政策、現代の中小企業の課題等を考察しながら学習をしていくことにある。	4前	4	○	△		○		○		
428		○		経営分析論	財務諸表・各種数量等の定量的情報や業界での地位・業種の状況等の定量的情報を基に、算定された経営指標等によって、企業の経営状態や課題を抽出し、経済的意思決定を行うことができるようにする。	4通	4	○	△		○		○		
429		○		組織行動論	組織行動における基礎概念を確認した上で、組織を一定の共通目的を持った複数の個人から構成される集団と捉えて理解を深めていくことで、組織や人材マネジメントにおいて必要となる判断力等を身に付ける。	4通	2	○	△		○		○		
430		○		生産管理論	現代の生産管理において重要な要素である Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(納期)について、バランスを考えながら利益や顧客満足度、企業価値の向上を図るべく、競争力の視点から生産管理における基本的知識と理論体系を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
431		○		戦略的行動論	ゲーム理論における数多くのケースに触れ、さらには、その応用モデルについて、分析し、解釈できるようになることで、企業間のライバル競争等で見られる戦略的行動を理論的に理解できるようになる。	4通	2	○	△		○		○		

432		○		リスクマネジメント論	リスクマネジメントの基本理論として、基本的なスキームやリスクの特定、リスク分析評価、リスクコントロールとリスクファイナンスを理解するとともに、企業が有するリスク評価と決定に関する重要な要素について理解をすることで、経営戦略リスクマネジメントの実践的な展開方法を修得する。	4通	2	○	△		○		○		
433		○		経済学応用	経営者への適切なインセンティブづけ、従業員のインセンティブを考慮した組織のデザイン等の情報とインセンティブにまつわる諸問題を経済学の視点で考察し理解する。	4通	2	○	△		○		○		
434		○		現代会計基準論	国際財務報告基準(IFRS)を巡っての日本国内外の動向を概観していくとともに、日本会計基準の各基準の背景と内容を確認しつつ、その理解を深める。	4通	4	○	△		○		○		
435		○		コストマネジメント論	マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務での利活用を目指す。	4通	4	○	△		○		○		
436		○		原価計算論	財務諸表作成目的並びに経営管理目的として実施される原価計算において、原価情報等の有用性、それを活用するための知識と知見の修得を目指し、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、手続きの根拠になる理論を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
437		○		管理会計論	管理会計システムは、組織管理に不可欠な経済的な情報を提供する理論・技術であるところ、戦略や利益計画の作成と実行に管理会計システムを役立てることが可能である旨を理解・学修する。	4通	2	○	△		○		○		
438		○		意思決定会計論	企業の将来の経営方針や財務状況に大きく影響する、非常に重要性の高い意思決定であり、研究開発や設備投資、M&A 等の多額の資金を必要とした長期的・戦略的視点が必要となる戦略的意思決定について、意思決定目的に役立つ会計情報の作り方や使い方について学修する。	4通	2	○	△		○		○		
439		○		財務会計応用Ⅰ	財務会計における制度や理論、その活用方法を修得する。基礎概念から個別財務諸表の基本項目について、会計基準等の知識・理解を得るだけではなく、その基盤にある考え方を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
440		○		財務会計応用Ⅱ	財務会計における制度や理論、その活用方法を修得する。具体的には、金融商品、デリバティブ、リース、固定資産の減損、研究開発費・ソフトウェア、退職給付、新株予約権、組織再編、税効果、連結財務諸表等の会計基準等を学修する。	4通	2	○	△		○		○		

441		○		ＩＴリテラシー基礎Ⅰ	最も広く使用されているプログラム言語であるC言語を通して、プログラミングの基礎を理解した上で、プログラミングの概念や技法の基本を修得する。	4通	4	○	△		○		○		
442		○		ＩＴリテラシー基礎Ⅱ	人工知能(AI)の開発等のプログラミング言語として広く活用され、機械学習・深層学習アルゴリズムの実装に不可欠となるPythonを用いた基本的なプログラミング技術を修得する。	4通	4	○	△		○		○		
443		○		ＩＴリテラシー基礎Ⅲ	データベースの仕組みを学修する上で必要となる関係データベースに関する基礎理論、SQL、設計理論等について理解をすることで、データベースの理論と実装を学び 、基本的なデータベースの操作方法並びに活用方法について学修する。	4通	2	○	△		○		○		
444		○		ＩＴリテラシー基礎Ⅳ	基本設計、外部設計、内部設計、プログラム設計、テスト、運用保守等の情報システムの構築に必要となる知識と技術を修得する。具体的には、プログラム言語として、Microsoft Excelの機能の1つであるVBA(isual Basic for Application) を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
445		○		ＩＴリテラシー応用Ⅰ	Microsoft Excelでデータベースを構築するとともに、データ分析を目的とした基本的な技法を実践的かつ具体的に例題を用いて学修する。具体的にはMicrosoft Excelのデータベースファイルに VBAマクロを組み込んだ、高度なデータ分析手法を修得する。	4通	2	○	△		○		○		
446		○		ＩＴリテラシー応用Ⅱ	経営情報システムの特性を理解した上で、現状を分析し、システムを再構築することでICTを利活用すべく、そのために必要となる基礎理論から、情報システムの設計や管理、インターネット・ビジネス等を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
447		○		ＩＴリテラシー応用Ⅲ	プログラム言語の中でも、とりわけ広く用いられているJAVA言語における変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法や役割、動作を理解し、実際に使用することで、プログラミング技術の修得をする。	4通	2	○	△		○		○		
448		○		民法Ⅰ（総則・物権）	民法総則・物権における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修する。	4通	4	○	△		○		○		
449		○		民法Ⅱ（債権・親族相続）	民法債権・親族相続における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修する。	4通	2	○	△		○		○		

450		○		商法総則・商行為法	商法総則・商行為法の学修を通して、企業と企業取引に関する特別規定等の理解を深めるとともに、私法における一般法としての民法Ⅰ（総則・物権）、民法Ⅱ（債権・親族相続）の学修も併せて行うことで、企業や商取引を取り巻く法制度に係る知識を修得する。	4通	2	○	△		○		○		
451		○		会社法	株式会社の設立や運営の方法、また、出資者である株主や会社債権者を保護するために法規制、さらには、企業が法律や規則、倫理規範等に従って行動する等、実践のための重要な基礎的知識や理論及び法体系を学修する。	4通	4	○	△		○		○		
452		○		租税法Ⅰ	租税の意義や主たる税目の概観等の体系的かつ基本的事項を学修することで、租税法学の基礎的な思考を身に付ける。また、租税法の性質として、経営、経済、会計等の領域にも通じる学問であることから、実務における対応能力を修得する。	4通	2	○	△		○		○		
453		○		租税法Ⅱ	法人税法における基礎概念や概要、課税上の諸問題等について、実務を遂行していく上で必要となる知識や仕組みを法律の観点から学修する。	4通	2	○	△		○		○		
454		○		行政法総論	行政法における「法律による行政の原理」等の基本的な原理を理解しつつ、行政行為や行政指導、行政計画、行政契約等の行政の形式に関する概念及び法的規律性について学修をするとともに、情報公開法や行政手続法等に関する法律的枠組みや制度背景を学修する。	4通	2	○	△		○		○		
455		○		卒業論文Ⅰ	卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得する。論題設定の動機・内容・構成・参考文献などを具体的に提示し、それに対して、担当教員が助言等を行う。	4通	2	○	△		○		○		
456		○		卒業論文Ⅱ	卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得する。自身が設定したテーマの下、研究計画書及び論文要旨を参考にしながら、実際の論文執筆から、完成・提出・評価までの内容となる。	4通	2	○	△		○		○		
457		○		実務演習Ⅳ	実務で必要となる所得税法を体系的に学び、個人事業主や新入社員などが身につけたい税務処理ができる知識、実務での応用的税務処理を習得するための講義	4後	3	○	△		○		○		
458		○		所得税法応用Ⅲ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	4前	2	○			○		○		

459		○		所得税法総合Ⅲ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	4前	6		○		○		○		
460		○		所得税法入門Ⅴ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	4前	1	○			○		○		
461		○		所得税法基礎Ⅵ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	4後	4	○			○		○		
462		○		所得税法基礎Ⅶ	「所得税法」に基づいた計算方法を学習する。	4後	1	○			○		○		
453		○		所得税法Ⅲ	「所得税法」に基づいた計算技術習得を目的とする。	4後	2	○			○		○		
合計					463 科目					860 単位					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	（単位の授与） 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。各科目の成績を判定の上、不可の場合は単位を認定しない。 （卒業の認定） 授業科目の成績評価に基づいて、卒業審査により課程修了の認定を行う。校長は、本校所定の課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与する。 会計システム４年制学科　１２４単位	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	（試 験 等） １．学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う。 効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。 追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。 ２．各授業科目の成績評価方法については別に定める。 （学業成績） １．学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の５種をもってこれを表し、秀は９０点以上、優は８０点以上、良は７０点以上、可は６０点以上、不可は６０点未満とする。 ２．授業科目の成績は、前項の５種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP（Grade-Point）を与える。	１学期の授業期間	24 週